

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100527		
法人名	株式会社 オフィスこおり		
事業所名	グループホーム102	ユニット名	1F
所在地	宮崎市船塚3丁目101番地		
自己評価作成日	H27年日2月2日	評価結果市町村受理日	平成27年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;ljzvosvoCd=4590100527-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=002">http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;ljzvosvoCd=4590100527-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=002</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の地域資源(公園・図書館・博物館など)を生かしながら支援を行っている。利用者の意思を尊重し、状況に合わせた個別の対応を心掛けている。ご家族とのコミュニケーションも積極的に図り、運営推進会議ではご家族や地域住民の方と活発に意見交換を行っている。利用者様が安心して穏やかに過ごして頂けるように、職員とご家族が一体となって協力し合いながら、家庭的な雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは3階建てで、1階と2階が居室になっている。歩行の不安定な利用者も昇降機があり、2階へ安全に安心して上がることができる。身体拘束についてミーティングで話し合ったり、毎月の職員会議で管理者が、職員の疑問に答えることで共通の理解を深めている。オムツの業者に来ていただき勉強会を行い、利用者の尿量でオムツの種類、当て方などを工夫したところ尿漏れがなくなり、使用量も減った。利用者のより良いオムツの検討を、申し送りや職員会議で行っている。利用者が受診した時に薬の処方などが変わった場合、管理者が職員一人ひとりに記録を渡して情報の共有を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心安全・地域と共に」をスローガンに掲げ、管理者が中心となって職員全員が共有・実践し、職員会議の中で意識づけを行っている		「安全安心」の理念を基に日々の業務を行っている。昼食は食事介助をしながら多動の方の見守りも行っていたが、転倒の危険などあり業務の見直しを図り、見守りの職員を配置して利用者の安心と安全につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣家へ回覧板を回したり、ご近所の方へ会った際は積極的に挨拶をするように、職員全員が心掛けている。敬老会への招待も行い、地域との交流を意識して取り組んでいる		自治会長から地域の運動会への参加の声掛けがあったが、参加できなかった。回覧板を届けたり、近所の方への挨拶は職員が行っている。	地域の行事に参加したり、近くの保育園や幼稚園行事への参加、訪問の受け入れなど、積極的な取組に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣家の方々へ不定期ではあるが利用者の状況を報告し、認知症の方に対する理解や事業所が行っているケアを地域の方に理解して頂けるように取り組んでいる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、会を開き、時間内で施設の活動内容等の報告をしている。ご家族の方からの要望・施設への改善点など活発に意見して頂き、サービスの向上に努めている		会議では、職員への要望や食事についての意見等が出され、それらの改善に向けて取り組み、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず中央西地区地域包括支援センターより代表者の方にご出席頂き、地域の活動や情報を頂いている		ホームの運営、介護保険について、積極的に担当者に電話をしたり、訪問して情報を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り時間帯を利用して、必要に応じてミニカンファレンスを行い、職員で身体拘束の具体的な行為について理解し、拘束しないケアに積極的に取り組んでいる		身体拘束についてホーム内研修を行い、ミーティングで話し合ったり、職員会議で管理者が職員からの疑問に答えて理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて高齢者虐待防止法について再確認し、施設での管理体制に十分に注意を払っている			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は地域包括支援センター主催の権利擁護の研修会に参加した。必要な方には地域包括支援センターの方と協力しながら支援を行っている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時にはご家族の方にも時間を多くとって頂き、契約書・重要事項説明書・運営規定の説明を細かく行っている。ご家族に十分納得して頂いた上で、契約・解約が出来るように心がけている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会時には必ずご家族と接触をし、コミュニケーションを積極的に図っている。ご家族より意見を言って頂きやすい雰囲気づくりに努めている		家族の来訪時に、管理者へ意見・要望が伝えられることが多い。必要時には、管理者が職員へ直接指導を行ったり、職員会議で検討するなど、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議時にでた意見は、管理者より代表者へ報告し、運営に反映させられるよう、双方が努力している		個人面談等で、管理者が職員に意見を聞く機会を設けている。必要時は管理者から運営者に伝え、運営に反映されるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、職員の家庭状況等を把握した上で、働きやすい職場環境を第一に考え、配慮している			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内等を職員の目のつきやすいところに掲示したり、声掛けを行い、参加できるように対応している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等への参加の中で、他の事業所との意見交換や情報収集に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人と面会を行い、ご本人が抱えている不安やこれからの生活の中での要望に耳を傾け、ご本人のペースに合わせてながら理解し、施設側としてご本人を主体としながら支援していくことを心がけながら、信頼関係に努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、入所前に可能な限り連絡や面会を行い、不安な気持ちや要望をしっかりと把握し、信頼関係を築いていこうとスタッフ一同心がけている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化によって伴うご本人のダメージを最小限に抑える支援をスタッフ間で随時検討し、柔軟に対応して。ご本人の必要性・ご家族の要望があれば、他のサービスを利用することも話し合い、ケアマネを中心に問い合わせ等をしている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対して人生の先輩という尊敬の気持ちを念頭に、声掛け等おしつけがましいものにならないようスタッフ全員が心がけている。時には利用者から職員に対して、報いの言葉をかけて頂く場面もあり、良い関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に、利用者の日常の様子や健康状態などを報告し、ご家族に事実を伝えながらも安心して頂けるようお伝えしている。面会時は、利用者のご家族がゆっくりと過ごして頂けるようスタッフは配慮している			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人の来訪時には温かく迎え、再度来訪して頂けるような雰囲気づくりに努め、利用者との関係が途切れないように支援している	近所にある利用者の自宅に連れて行ったり、なじみの和菓子屋に寄ったりして、地域との関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、利用者の性格や関係性を重視しながら、利用者同士の関わりや気持ちの変化に柔軟に対応しながら支援を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のご本人・ご家族の経過を必要に応じてフォローし、相談や支援を行っている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中からも、本人や家族の要望、意見を把握するようにしている	利用者本人には日常を過ごす中で意見等を聞き、家族からは来訪時に思いや意向を聞いて、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用して把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時からセンター方式シートを利用して、本人の生活歴等を記録し、本人・家族を理解するようにしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子はセンター方式シートを利用して記録し、健康状態の変化は別記録を利用することで、現状把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面談の機会を設定することに加えて、日頃の本人・家族とのやり取りもアセスメント・モニタリングの機会と捉えて、意見を生かすようにしている	家族は来訪時に、職員は申し送りの時に意見を聞き、介護計画書に反映している。モニタリングは毎月行い、状態に変化があれば見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活の様子、ケアの実践はセンター方式シートを活用して記録し、必要に応じて朝の申し送りや資料を配布して、情報を共有できるようにしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や外出の機会が少ない利用者に対して、定期受診の際に外出支援を組み合わせたり、外部の訪問マッサージを取り入れて、知人の一人になってもらえるよう協力を求めたりしている。			

宮崎県宮崎市 グループホーム102(1F)

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で地域やボランティアによる音楽やダンスで交流を図ることは出来たが、積極的に地域資源を活用して利用者の生活を変えるところまでは出来ない			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、医療連携医による往診があり、医院の担当看護師とも連絡を取り合いながら、利用者の状況に応じて適切に支援している。かかりつけ医のある利用者については、ご家族付添の下、受診に行っているが、必要に応じて職員も同行し、主治医に状況報告等を行っている	家族受診の場合は、ホームの状況などを記録した提供書を渡して情報提供を行っている。受診の結果は申し送りノートに記録し、薬の処方などが変わった場合は、職員一人ひとりに記録を渡して情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を有する職員を中心に日常の看護体制をとり、看護師、介護士関係なく全員で情報を共有し、連携をとりながら支援を行っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、緊急時情報提供シートを活用しながら、病院側に早い段階で利用者の情報提供を行っている。ご家族同席の下、今後の治療内容や退院に向けた話し合いを積極的に行っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針と看取り同意書をもとに、利用開始時にご本人・ご家族に説明を行い、施設の現状を十分にご家族に理解して頂いた上で同意を頂いている。これまで施設での看取りを三回行ったが、職員・協力医・訪看・ご家族が一つのチームとなって連携を図りながら取り組めた	家族、医師、訪問看護、職員との話し合いの内容については、記録を全職員が共有し、共通理解をするようにしている。看取り時等の夜間については、訪問看護ステーションから説明を受け、一緒に対応する取組をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の緊急事態に備え、消防の出前講座を開き、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の立会いの下に訓練を行い、実践的な取り組みを行っている。運営推進会議時に地域住民の方にも協力を募り、体制を整えるための努力をしている	防災訓練を行っているが、職員だけの訓練で終わっている。報告書がなく、地域住民の参加もない。	訓練後は報告書を作成し、次回に生かしてほしい。また、運営推進会議を活用したり、地域住民に働き掛け、協力体制を整えることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年一年間は接遇マナーに力を入れようと、職員会議や個人面談等で注意を払っている。接遇担当の職員を中心に、施設内研修を積み重ねていく予定		言葉かけなどがなれ合いにならないよう、職員会議等で意識して取り組んでいる。車いすのトイレ介助は、転倒防止のためにドアを開けて見守りが行われているが、トイレから少し離れた廊下にカーテンがある。	トイレ介助では、手すり等を設置して転倒防止を行い、ドアの内側にカーテンなどを付けることで、プライバシーの確保に努める工夫を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	以前は業務優先が時折目についていたが、利用者一人ひとりのペースに合わせて支援を行えるように、少しずつではあるが努力している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を尊重し、束縛のない生活が実現出来るよう、可能な限り支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、定期的に理容師の方に来て頂き、利用者の身だしなみには管理者を中心に特に注意を払っている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に同じものを同じ時に食べられる機会も兼ねたレクリエーションを計画し、積極的に取り組んでいる。外出支援の際には、利用者の意思で食事メニューを決定して頂けるように支援している		職員は、利用者に台拭き、お茶つぎを手伝ってもらっている。おやつの時にホットケーキと一緒に作ったり、また、利用者の好きなものを出前を月1回頼むなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分摂取量を記録し、状態を把握している。申し送り時に栄養の偏り、水分不足が気になる利用者については、補食・水分補給を行えるよう検討し、柔軟に対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時の口腔ケアは欠かさず行っている。ご家族とも話し合いながら、必要性のある利用者には連携をとっている。歯科医院の衛生士による口腔ケアの往診も依頼している			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握した上でトイレ誘導の声掛けを行い、支援している。可能な限りトイレでの排泄が自立して出来るように支援を行っている		オムツの業者に来て頂き勉強会を行っている。利用者の尿量で種類、当て方などを工夫したところ使用枚数が減り、尿漏れもなくなった。職員会議で、利用者のより良いオムツの検討を申し送っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄リズムを把握し、利用者の変化に応じて柔軟に対応している。自然排便を促す為の工夫として、水分摂取の声掛けを積極的に行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴は週二回行っているが、利用者の希望を尊重し、いつでも入浴できるように対応している		基本は週2回であるが、希望すれば週3回から4回入浴でき、希望により夕方入浴することもできる。浴槽は、ふちをまたがず入ることができる機械浴槽を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の申し送り時で利用者の睡眠状態を確認し、介護日誌に記録をしている。状態に応じて休息を促したり、夜間眠れないときは温かい飲み物を提供し、安眠できるように支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬する薬の用法・用量を職員がいつでも確認できるようにバイタルチェック表に挟み、症状の変化観察と共に活用している。服薬確認を複数人で行い、誤薬防止に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を紐解きながら、日々変化する状況・状態にあった支援を行うよう心掛けている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	レクリエーションなどの中で外出を計画し、その中で支援を行っている		近所の散歩、買い物、文化公園に行っている。福祉バスを借りて一ツ葉、橋通にドライブに出掛けることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で金銭管理できる方は、ご家族の承諾を得て、少額の現金をご自身で管理されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、個別に対応をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のスペースは決して広くはないが、換気や室内温度に気を配り、利用者の状態に合わせて刺激を軽減する配慮を行っている。利用者作品等を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫している	廊下に油絵や利用者の作品が飾られている。食堂には、花や湿度が低くならないよう加湿器が置かれ、居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態・状況に応じて席替えを行うことはあるが、ご本人が居心地の良い場所を指定席としている。いつでも共有スペースが利用でき、誰かがいるという安心感をもって頂けるように、工夫しながら支援している			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族の希望に沿った居室環境を作り、馴染みの品物等に囲まれ、安心して過ごして頂けるように工夫しながらも、安全とプライバシーの配慮に心掛けている	家族写真、油絵、たんすなどの思い出の品々を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の「出来る事・分かる事」をスタッフで把握・共有し、統一した支援を行いながら、それらを持続できるように環境面などの工夫をしている			